



なでしこ



令和4年(2022年)8月30日

No. 13

令和4年度「全国学力・学習状況調査」を活かす(2)



校長 中村 真理子

まだまだ残暑厳しい折ですが、本格的に2学期の学校生活がスタートしました。9月に入りますと、10/1(土)の「運動会」に向けて、各学年での様々な取組も始まってまいります。

さて、前号の学校だより「なでしこ」(No.12)において、「学力状況調査(国語科・算数科・理科)」の結果や今後の取組についてお知らせいたしました。本号では前号に続いて、「学習状況調査(児童質問紙)」の調査結果や課題等についてお知らせいたします。国語科・算数科・理科の学力調査の結果だけではなく、「児童質問紙」から本校が目指す子ども像と関連の深い項目を取り上げました。

本校では、今回の調査結果を重く受け止め、より詳細に分析を行い、これまでの取組を検証したうえで具体的な改善策や効果的な方策を、保護者・地域の皆様と一緒に、今後講じていきたいと考えています。

1.学習状況調査(児童質問紙)の結果

本校の「学習状況調査」(児童質問紙)の結果で、特徴的なものを示します。

数値は質問に対して「当てはまる」「やや当てはまる」等、肯定的な回答をした児童の割合(%)です。

(1)規範意識・自己有用感について

質問事項	肯定的な回答をした児童の割合(%)		
	本校R4	全国R4	全国との差(pt)
① 自分にはよいところがあると思いますか	82.1	79.3	↑ 2.8
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	93.4	87.1	↑ 6.3
③ 将来の夢や目標を持っていますか	86.8	79.8	↑ 7.0
④ 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	77.4	72.5	↑ 4.9
⑤ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	98.1	95.1	↑ 3.0
⑥ 今、住んでいる地域の行事に参加していますか	57.6	52.7	↑ 4.9
⑦ 友達と協力するのは楽しいと思いますか	96.3	94.0	↑ 2.3
⑧ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.1	96.8	↑ 1.3
⑨ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	88.7	87.2	↑ 1.5
⑩ 人が困っているときは、進んで助けていますか	89.7	88.9	↑ 0.8

本校では、人権教育を学校教育の基盤として、「自己肯定感・自己有用感」を高める取組を、継続的に進めてきました。「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」などの質問に対して、肯定的な回答が、全国値よりも大きく上回っており、子どもたちの自己肯定感の高さが明らかになりました。



また、「人の役に立つ人間になりたい」「友だちと協力するのは楽しい」など、対人関係に関する道徳心が全国値よりも上回っていることも、特筆すべきことです。本校6年生の児童が、「人の気持ちがわかる、心豊かな子どもたち」であることが、本調査により明確になりました。

学校と連携しながら、保護者・地域の皆様方の温かい支えのおかげで、子どもたちに「自己肯定感」や「自己有用感」が育ってまいりました。今後も、失敗を恐れず、様々なことに挑戦できる気持ちをもつことができるよう、日常の学校生活・行事等を通して子どもたちに挑戦の場を与え、成功体験を積み重ねられるような指導を、さらに心がけていきたいと考えています。



(2) 学校生活・学習への関心について

質問事項		肯定的な回答をした児童の割合(%)		
		本校R4	全国R4	全国との差(pt)
①	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	74.6	71.1	↑ 3.5
②	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか(「ほぼ毎日使用」と回答した割合)	84.0	26.7	↑ 57.3
③	理科の勉強は大切だと思いますか	92.5	86.5	↑ 6.0
④	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	76.4	68.4	↑ 8.0
⑤	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	58.4	68.1	↓ 9.7
⑥	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	63.2	80.4	↓ 17.2
⑦	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	37.7	51.3	↓ 13.6
⑧	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	69.9	78.2	↓ 8.3

本校がこれまで重点的に取り組んできた「ICTを活用した学習」や「自主学習大賞」等の取組の成果が少しずつあらわれてきました。今後も個別最適な学びの実現のために、ICTを効果的に活用していきます。

一方で、「ねばり強く考えて学習に取り組むことや、分からなかった課題を見直すこと」、「地域や社会をよくするために、自分で何をすべきかを考えること」に課題が見られます。

●これらの課題を克服していくためには、全ての教科の学習で、子ども自身が「何をできるようになるか」「どのように学ぶか」といった、『自ら学ぶ力』を伸ばすことを意識した授業づくり・授業改善に、取り組む必要があるととらえています。そのために、学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」について、教員が研究を深め、子どもの学力向上を一層めざす必要があると考えています。

●子どもたちにとって、より相談しやすい、きめ細やかな対応を心がけていくために、特に困りごとがある時にいつでも相談できる場として、休み時間の「心の保健室」の充実を進めていきます。



(3) 生活習慣・家庭学習について

質問事項		肯定的な回答をした児童の割合(%)		
		本校R4	全国R4	全国との差(pt)
①	普段、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか(「2時間以上している」と回答した割合)	57.6	50.2	↓ 7.4
②	普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしますか(「1時間以上している」と回答した割合)	67.0	50.6	↓ 16.4
③	放課後や週末に家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたりSNSを利用したりしている	90.6	82.1	↓ 8.5
④	授業時間以外の平日に、1日あたりどのくらいの時間、勉強しますか(1時間以上)	57.6	59.4	↓ 1.8
⑤	学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか(1時間以上)	46.2	56.1	↓ 9.9



平日(月～金)に1日あたり2時間以上、スマホや携帯ゲーム機等を使用している子どもが57.6%いることがわかります。平日に、6年生の目安としている1日1時間以上、家庭学習をしている子どもは57.6%でした。また、学校が休みの日に1日1時間以上、家庭学習している子どもは、46%。上表には記載していませんが、全く家庭学習をしない子どもも15%いました。休みの日に1時間以上家庭学習する子どもが半数に満たず、全国比で約10ポイント下回っています。

●スマホや携帯ゲーム機等の使用時間と、生活習慣及び家庭学習の因果関係は大きいことがわかっています。スマホや携帯ゲーム機を使用する時間等について、ご家庭におけるルールをお子さんと一緒に考えていただくとともに、ご家庭においても、お子さんが学習に向かう環境整備を、保護者の方々によびかけ、協力していただく必要があると感じています。また、学習面だけでなく健康面も含めて、スマホや携帯ゲーム機等の使い方等について、子どもたち自身に考えさせていく必要があると、とらえています。